

地域部活・掛川未来創造部 Palette
プロデューサー 兼 顧問 齊藤 勇

1. 掛川市の地域部活動の概要と経過

1.1 民間NPOが発起し企画運営の主体となり、自治体・教育委員会と協働する形で活動を実施。

1.2 部員数 ※参考=掛川市内中学校は9校、生徒数1学年 約1000名

1年目 2018年4月創部 市内の4校より中学1年 16名入部

2年目 市内の5校より 中学2年 15名、中学1年 4名、計19名で活動

3年目 市内の7校より 中学3年 15名、中学2年 4名、中学1年 22名、計41名で活動

1-3. 活動報告

《3年間変わらず実践している内容》

主な特徴；

子どもたちの自主性・主体性を最大限に尊重（子どもたち自身が動かしていく部活の実践）

ジャンルを自由に横断、部内でユニットやチームの創造と解散が自由

活動日；

平日2日（火曜と木曜、18時～20時）、週末は土日のいずれかで月2～3回、年間100日程度

主な行事；

地域向けのイベント（対外発表） ※地域の文化・歴史・産業をテーマに設定

内部向けの諸行事（ウエルカムイベント、謝恩会など）

《創部当時から変化してきた内容》

活動ジャンル；

1年目 音楽（吹奏楽や管弦楽は除く）、演劇（ダンスを含む）、放送（主に朗読）

2年目 音楽、演劇、ダンス

3年目 [表現] 音楽・演劇・ダンス・総合アート（主にイラスト制作）・IT・MC

[制作] 舞台技術・台本制作・演出・映像や音の編集・衣装制作・作詞作曲・SNS等

外部講師によるプログラム；

1年目 年間 約60回 部に来訪・指導 内訳：音楽21回、演劇23回、放送11回

2年目 年間 約20回 指導 内訳：音楽3回、演劇4回、ダンス11回

3年目 オンラインで実施 内訳：音楽1回、演劇（台本書きWS）2回、ダンス3回、IT1回

組織体制；

1～2年目 従来型の部長・副部長をリーダーとする体制を採用

3年目 ジャンル横断のプロジェクトチーム体制に改編（部長・副部長体制を廃止）

※フラット型でプロジェクトチーム個々が意思を持った自走式の体制

※複数のプロジェクトを全体の視点から調整する運営統括委員会を設置

（委員長が学生の代表者、従来の部長に相当） ※部長は当面大人が代行

2. 学校部活動と大きく異なる点

- 2-1. 入部する生徒の個性とニーズによって、毎年活動する内容が変わる点。
- 2-2. 大会に一切関与しない ※大会=審判・審査方式で成績上位を競うコンクールやコンテスト等を指す
- 2-3. プロデューサーが存在する部活動 ⇒ 当面は大人が担当。直接的な指揮や演出などは行わない。
- 2-4. 中高生の部活動の先に 大学・社会人による NPO 活動参画型の地域部活動を展開(生涯学習)
 - ⇒ 大学生以上の部員が、中高生を支援(循環型の運営体制を構築)
 - ⇒ 自治体主催の地域芸術祭等の企画プロデュースの一部を担うなど地域振興への寄与

3. 学びのポイントと特徴

- 3-1. 習い事的な要素は含まない(例:特定ジャンルの表現技術向上のためのレッスン)
- 3-2. シティズンシップ教育
- 3-3. ICT教育 (部のマネジメントや活動全般における ICT の有効活用)
- 3-4. 報徳の精神(二宮尊徳提唱の報徳仕法、道徳と経済の両立)
 - ⇒人材・資金両面においてNPOの存立基盤の確立を目指す
 - (長期的に地域の強みを生かした収益事業に着手、寄付や公的資金による助成依存からの脱却)

4. 部活動の肥大化・過熱化・活動時間の長時間化・費用の高額化への対策

- 4-1. 週2~3日に限定(週末、土日連続の部活動は絶対に行わない)
- 4-2. 大会への不参加
- 4-3. 外部講師のオンライン化(地域部活の本部が提供)
 - ⇒対外的な発表機会に向け、講師が指揮や演出など作品づくりに一切関与しない仕組み。
 - 顧問(大人)は相談役。スタッフは見守り役。
 - ※直接 利害が生じる業者や個人事業主(講師など)との間に明確な一線を引く事が重要
- 4-4. 保護者会(組織)は編成しない。(保護者は送迎の支援のみに限定)

5. 地域部活動・特有の課題と今後の対応

(課題1) 資金の確保(会場費など特に高額な支出が伴う点) ※掛川の例:会場費 年間約60万円)

⇒(対応1)

- ・テレブカツの併用、外部講師のWS等は本部からオンライン配信を共有。
 - (テレブカツ=テレワークの部活動版、各部員の自宅とオンラインでつないで行う部活動)
- ・基盤拡大と共に、5~10年後は公共施設だけでなく、地域の空き家・空き店舗などを活用

(課題2) 特に地方都市の場合、放課後の送迎が難しい家庭の生徒は参加できない点

⇒(対応2)

- ・平日はテレブカツで参加し、週末の部活動のみ集合参加式も検討。
 - (ICTを活用した活動およびマネジメントの情報共有のシステム化が必須)
- ・将来は近隣の空き家や空き店舗へ拠点拡大を図ることで直接参加可能な環境を段階的に整備。

6. 今後の展開

- 6-1. 2021年度より高校生の地域部活動を創部 ※中高一貫式ではない。中学生の部活は独立して継続。
⇒ より実践的でキャリア形成につながる活動を行う。適宜に中学生とのコラボも実施。
(中学から地域部活部員の中の入部希望者に加え、高校から新たに入部を希望の生徒も受付)

- 6-2. 10年後を目安に、掛川市が3年に一度行う街づくり地域芸術祭の企画や運営の一部を担当
⇒ Paletteの一期生および来春入部の高校1年生が大学に進学するが2024年度。
4年制大学を卒業し社会に出るのが2028年度)

- 6-3. 文化系・地域部活動を支援する本部機能を担う新NPO法人の設立(2021年度から本格稼働)

(注) 本部との連携については、独自性が損なわれ自由な発想による活動が制限される印象を受けるが、実際の活動は自由であるほか、対外活動のテーマが地域の文化・歴史・産業であるため、各拠点の個性や強みを発揮できる。外部講師の招聘や講座の設定、情報システム構築などの手間を軽減でき、現場は最小限の人員と費用で運営できる形を確立することを本義として設立する。

※制限があるとすれば、活動の肥大化・過熱化・活動時間の長時間化・費用の高額化を防止する観点のガイドラインの遵守があげられる。

◆新NPO法人・本部の業務：

- ・新NPO法人が定義する地域部活動の理念 および ガイドラインの提示(部活動改革の観点より)
- ・本部直轄の地域部活動・掛川未来創造部 Paletteの主催運営(活動の実践とノウハウの蓄積)
⇒ 今後はPalette以外の多彩な地域部活動が各地に創部されることが期待され、それを本部が支援する。
- ・学校の教育課程と関連したプログラムデザインの開発と各種コンテンツの共有(情報提供)
- ・各ジャンルの基本学習用の外部講師による映像コンテンツ制作やオンライン講座の発信
- ・地域振興につながるプログラム実践による人材&資金面での支援体制のモデル構築
- ・直轄部活動(Palette)の実践の中で、運営上の反省点や課題および対処方法などの情報を共有
※情報提供にあたっては、Palette部員のプライバシーには厳重に配慮
- ・IT技術を活用した部活動運営のためのシステム開発と運用のためのサポート
- ・地域部活動に関わる全国の団体が共有できるWEBサイトの開発と運用のためのサポート
- ・部員募集リーフレットなど、即活用できるテンプレートの提供(デザイン制作費の節減) など

◆部活動の現場(全国各地の地域部活動を推進する自治体、教育委員会、実情に応じて結成する任意団体等)：

- ・子どもたちの活動の見守り(顧問・副顧問の業務 → 相談役)
- ・本部提供の外部講師のオンライン指導プログラムや講座・講話などの現場における視聴サポート
- ・子どもたちの日々の様子のチェックと年1回の活動のまとめ作業(本部の管理システムを使用)
→ まとめた書類は、年1回、生徒が通う学校の校長宛てに郵送(オンライン送信も可)

[新NPO法人が推進する活動の中で、対象とならない文化系のジャンルや活動例]

- ・専門性を有する指導者(大人)が、指揮(音楽)や演出(演劇)などを直接的に行う活動
- ・伝統的な流派など、師匠から常に学び、その技能が伝授される活動
- ・競技性を有するジャンル(大会への出場を前提にする活動)